

令和6年度 ロームシアター京都 指定管理業務自己評価書

1 業務実績及び概要

ロームシアター京都は、開館以来掲げる「劇場文化をつくる」というコンセプトのもと、より一層、自主事業の推進に努めてまいりました。これまでと同様に、「つながり（交流）」を全事業の包含する要素として位置づけ、「つくり（創造）」、「育て（育成）」、「活かす（生活）」有機的なサイクルを作り上げました。あわせて、賑わいスペース事業やミュージックサロン事業等により、賑わいの創出や文化芸術を身近に親しむための取組を行いました。

令和6年度のラインアップテーマは「好奇心の入口、世界への出口」。プログラムには、国内外のアーティストによる探究心と知的冒険に満ちた取組が並びました。

2 主催・共催事業に関すること

令和6年度の自主事業（主催・共催事業）は、39事業103公演18講座（うち中止1事業2公演）を開催し、総入場者数は65,373名でした。以下、項目ごとに実施した事業の特色や課題について記載します。

（1）文化芸術の創造及び振興に関する業務

ア 交流事業

海外アーティストによる上演、国際交流を促進する取組は、フランス、アイルランド、ポルトガル、ドイツからの舞台が来日しました。なかでも、ヴァンクリーフ&アーペルと協働したフェスティバル「ダンス リフレクションズ」では、ラシッド・ウランダン『Corps extrême—身体の極限で』、マルコ・ダ・シウヴァ・フェレイラ『カルカサ』と世界最前線のダンスを紹介することができました。ノエ・スーリエ『The Waves』、ドレスデン・フランクフルト・カンパニー ヤニス・マンダフニス&マノン・パラシ『SCARBO』と合わせて、世界水準の演目によって、「文化の殿堂」としての存在感を発揮しました。屋外公演（ノエ・スーリエ『Passage』）やワークショップも行い、アーティストと市民との交流機会創出に努めました。また、京都国際舞台芸術祭といった国内外の交流と地域の賑わいを創出する事業も好評裡に終了しました。

イ 創造事業

劇場の財産となる作品のプロデュースや国内外のアーティストとの協働により、ロームシアター京都を創造の場として活かした事業を展開しました。これまでも話題作を生み出してきた「レパトリーの創造」では、劇作家・演出家の市原佐都子による新作『キティ』を、日本、韓国、香港の俳優で上演しました。家父長制や資本主義、大量生産・消費システムのひずみから生じる不条理や滑稽、そして欲望のグローバルな均一化を、痛烈なQ（クエスチョン）に昇華して突きつけた本作品は、高い評価を得て、京都初演につづく東京公演ののち、ブリュッセル（ベルギー）、ウィーン（オーストリア）の巡演が決定しており、さらなる国内・海外公演も計画されています。元・京都市交響楽団常任指揮者の井上道義によるオペラ「ラ・ボエーム」は、全国の7つの公共劇場、7つのオーケストラとの共同制作で実現しました。

ウ 育成事業

開館当初より継続する「小澤征爾音楽塾」や「新国立劇場高校生のためのオペラ鑑賞教室」の充実に加え、「劇場の学校プロジェクト」、「リサーチプログラム」などの次代を担う若者を育成する事業を行いました。令和3年度から開始した「芸能の在る処～伝統芸能入門講座～」においては、レクチャーに加え、京都・滋賀をめぐるバスツアーも実施し、観客の開拓や育成・普及啓発に取り組みました。京都芸術センターと協働して行う創造支援プログラム「KIPPU」や京都市ユースサービス協会と連携する劇場の仕事体験「未来のわたしー劇場の仕事ー」によって、将来的な人材育成に寄与する事業も行いました。

エ 生活事業

夏の「プレイ！シアター in Summer」、秋の「OKAZAKI PARK STAGE」と毎年好評の恒例イベントを中心に、子どもから大人まで劇場を満喫し、気軽に舞台芸術を体験できる催しを開催しました。また、地域文化会館と協働し、小さな子どもとその保護者向けの公演を上演し、生活と密着したプログラムを展開したほか、京都市立芸術大学と協働し、「ちっちゃい焚き火（薪ストーブ）を囲んで語らい、いろいろ焼いて食べる会」を実施しました。ボランティアスタッフを募り、運営に参画いただきました。劇場と生活を結びつける機会の創出を目指し、オープンスペースの活用、ホールを飛び出して行う事業などを通して、京都・岡崎地域の施設や団体と連携を深め、地域の活性化に努めました。

【主な事業（ジャンル別）】

● 演劇

- ・第370回～第374回 市民寄席
- ・第73回 京都薪能―光源氏の夢―
- ・KAAT神奈川芸術劇場プロデュース『ライカムで待っとく』
- ・COCOON PRODUCTION 2024 『ふくすけ2024―歌舞伎町黙示録―』
- ・プレイ！シアター in Summer 2024 <ステージプログラム>
ミッドナイトシアター『はじめての一步』 from アイスランド
- ・能楽チャリティ公演～祈りよとどけ、京都より～
- ・レパトリーの創造 市原佐都子/Q『キティ』



● 舞踊

- ・ノエ・スーリエ 『The Waves』
- ・RYUICHI SAKAMOTO + SHIRO TAKATANI 『TIME』
- ・ラシッド・ウランダン 『Corps extrêmes — 身体の極限で』
- ・マルコ・ダ・シウヴァ・フェレイラ 『CARCAÇAカルカサ』
- ・ドレスデン・フランクフルト・ダンスカンパニー
ヤニス・マンダフニス&マノン・パラン ソロダンス 『SCARBO (スカルボ) 』



● 音楽

- ・Sound Around 004 メインアーティスト：荒木優光
- ・加藤訓子プロデュース スティーヴ・ライヒプロジェクト
- ・2024年度全国共同制作オペラ 歌劇「ラ・ボエーム」
- ・新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室2024「ドン・パスクワレ」
- ・クラシック×ジャズ 大西順子 meets 京都市交響楽団
- ・小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクトXXI ヴェルディ：歌劇「椿姫」
- ・中川裕貴「弭（ゆはず）」



● 総合／参加する劇場へ ～学芸・教育プログラム

- ・京都国際舞台芸術祭 KYOTO EXPERIMENT 2024
- ・ロームシアター京都×京都芸術センター U35創造支援プログラム “KIPPU”
- ・ロームシアター京都×京都市文化会館5館連携事業
- ・プレイ！シアター in Summer 2024 <オープンデイ>
- ・岡崎活性化事業 OKAZAKI PARK STAGE 2024
- ・ちっちゃい焚き火（薪ストーブ）を囲んで語らい、いろいろ焼いて食べる会

- ・舞台芸術プロデュース講座～演劇・ダンス編～
- ・劇場の学校



【事業開催実績】

別紙 1 参照

（２）賑わいスペースに関する業務等の実施状況

「京都会館賑わいスペース事業プラン」を推進するため、賑わいスペース事業者として京都市に選定されたカルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社（CCC）と調整・連携を図り、市民や観光客の皆様の憩いの場となるパークプラザを中心に、ブック&カフェ、レストラン、キオスクといった常設の店舗が高い評価を得て運営されるよう努めました。

令和６年度においても、ロームシアター京都が、舞台芸術のためだけでなく、より開かれた場として多くの方の交流の場となることを目指し、賑わいスペース事業者と連携し、生活文化等に関わる様々な文化事業を実施しました。

賑わいスペース事業 店舗等の概要

事業内容	店舗名	営業時間※
ブック&カフェ (パークプラザ１階)	京都岡崎 蔦屋書店	午前１０時から午後８時
	スターバックスコーヒー	午前８時から午後１０時
レストラン (パークプラザ２階)	京都モダンテラス	午前１１時から午後１０時
キオスク（サウスホール１階 ホワイエ内）	ファミリーマート	午前８時から午後８時
ギャラリー・ライブラリー (パークプラザ３階共通ロビー)	BOOK&ART GALLERIA	午前１０時から午後５時 (開館時間等に応じて変更)

※臨時休館等により、変更の場合あり。

入店者数

区 分	平成30年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
入店者数の実績値	1,708,053 名	1,266,065 名	1,732,889 名	1,745,810 名	1,788,672 名

【文化事業開催実績】

別紙2参照

（３）市内劇場文化の活性化に資する業務

上記【主な事業】の「● 総合／参加する劇場へ ～学芸・教育プログラム」にも記載の KIPPU により、創作や上演の場の提供や制作業務の支援等による若手アーティストの発掘や育成等を行うことで、市内劇場文化の活性化につながる取組を進めており、今後もこうした形で継続していくことが重要と考えています。

（４）その他施設の目的を達成するために必要な業務

ア 広報関連

主催事業ラインアップ・リーフレット、催物カレンダーの作成、ホームページやSNSの運用、販回り事業者と連携した取組、また、様々な広報媒体への働きかけ等により、効果的な情報提供や話題作りを行い、劇場への期待感を高めるとともに、施設の認知度を高める取組を引き続き進めました。

また、「大阪・関西万博」「JTB推し旅」などの施設を舞台としたコラボレーション事業に取り組んだほか、「京都モダン建築祭2024」へ参画し京都会館から続く建築的価値の発信を行いました。

イ 助成制度の活用等による事業の充実

企業からの協賛金や以前より獲得してきている文化庁等の助成金にも積極的に申請し、各種助成金獲得へ向けた取組強化を行いました。特に、文化庁関係で複数年の助成金を獲得することができました。また、平成26年度に開始した賛助会員制度（サポーター・パートナー会員）についても、引き続き新規の会員獲得に取り組むとともに、令和7年度に向けた制度改革の検討を進めるなど、外部資金の獲得等による劇場経営の基盤強化を図り、積極的な事業展開につなげています。

主な助成金等

対象事業名	助成団体等
新国立劇場・高校生のためのオペラ鑑賞教室2024「ドン・パスクワレ」	公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーション
劇場・音楽堂等機能強化推進事業 ＊令和6年度から5年間の継続支援	文化庁／独立行政法人日本芸術文化振興会
文化芸術活動基盤強化基金（クリエイター等育成・文化施設高付加価値化支援事業） ＊令和6年度から3年間の継続支援	文化庁／独立行政法人日本芸術文化振興会
KAAT神奈川芸術劇場プロデュース『ライカムで待っとく』	一般財団法人 地域創造
高谷史郎（ダムタイプ）『Tangent（タンジェント）』 エストニア・ヴェネチア公演	独立行政法人 国際交流基金
ヤニス・マンダフニス&マノン・パラン ソロダンス『SCARBO（スカルボ）』	ゲーテ・インスティテュート大阪／京都

主な協賛金等

対象事業名	助成団体等
ノエ・スーリエ 『The Waves』	RICHEMONT INTERNATIONAL（ヴァンクリーフ・アーペル）
OKAZAKI PARK STAGE 2024	京都信用金庫
ラシッド・ウランダン『Corps extrêmes—身体の極限で』	RICHEMONT INTERNATIONAL（ヴァンクリーフ・アーペル）
マルコ・ダ・シウヴァ・フェレイラ『CARCAÇA』	RICHEMONT INTERNATIONAL（ヴァンクリーフ・アーペル）
新国立劇場・高校生のためのオペラ鑑賞教室2024「ドン・パスクワレ」	ローム株式会社
プレイ！シアター in Summer 2024	ローム株式会社

賛助会員数と寄附金額

会員区分	平成30年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
スペシャルサポーター（法人）	1件 50万円	2件 100万円	2件 100万円	1件 50万円	1件 50万円
サポーター（法人）	31件 340万円	17件 180万円	17件 180万円	20件 210万円	24件 210万円
スペシャルパートナー（個人）	32件 162万円	28件 149万円	16件 103万円	23件 105万円	25件 118万円
パートナー（個人）	45件 90万円	48件 96万円	50件 100万円	45件 90万円	42件 65万円
少額寄付	— —	— —	— —	1件 1万円	— —
合 計	109件 642万円	95件 525万円	85件 483万円	90件 456万円	92件 443万円

＊令和6年度において、制度改正に伴う月割徴収と変更したため寄付金額が減少している。

ウ 地域活性化等

「（2）賑わいスペースに関する業務等の実施状況」にも記載の店舗の運営やイベントの開催等、また、CCCが開設している京都岡崎 蔦屋書店のWEBサイト等による情報発信などにより、岡崎地域の魅力向上に向けた取組を進めました。また、京都岡崎魅力づくり推進協議会とも連携し、同協議会が発行する「岡崎手帖」への催し情報の記事広告掲載を行いました。

さらに、ローム・スクエアを会場に、地域の団体等とも連携し開催した催し「OKAZAKI PARK STAGE」では、企画内容や事業形態を工夫して実施し、地域の活性化にも寄与できたと考えています。

3 施設管理運営に関すること

（1）概要

令和6年度のロームシアター京都では、各施設の特性を生かした舞台芸術公演や式典、学会、講演会などの様々な利用があり、多くの方々にご来場いただくことができました。

多様な利用内容に伴う様々なニーズに応えられるよう、利用者やお客様のご案内、場内サービス、各種設備の運転等について、実際の利用状況や利用者からのご意見等を踏まえた改善を引き続き進め、安全、安心で快適な劇場空間の提供に努めました。

また、利用促進を図るため、施設利用を検討している方向けの利用説明会を開催したほか、施設利用者向けのメールマガジンを新たにスタートし、施設の空き状況や貸館に関する情報の提供を行いました。さらに利用許可申請書の受付方法について、従来の郵便等に加えメールによる受付も開始し、更なる利便性の向上を図りました。

日数利用率

区 分		平成30年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
メイ ンホ ール	利用率(日数)の目標値	83 %	82 %	82 %	81 %	81 %
	利用率(日数)の実績値	81 %	63 %	82 %	77 %	77 %
	目 標 達 成 度	97.6 %	76.8 %	100 %	95.0 %	95.0 %
サウ スホ ール	利用率(日数)の目標値	82 %	76 %	76 %	80 %	80 %
	利用率(日数)の実績値	80 %	63 %	73 %	79 %	74 %
	目 標 達 成 度	97.6 %	82.8 %	96.0 %	98.7 %	92.5 %
ノー スホ ール	利用率(日数)の目標値	75 %	74 %	74 %	72 %	72 %
	利用率(日数)の実績値	72 %	67 %	78 %	78 %	73 %
	目 標 達 成 度	96.0 %	90.5 %	105.4 %	108.3 %	101.3 %

入場者数

区 分	平成30年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
入場者数の目標値	510,000名	330,000名	330,000名	500,000名	500,000名
入場者数の実績値	497,784名	210,564名	332,861名	352,568名	356,716名
目 標 達 成 度	97.6 %	63.8 %	100.8 %	70.5 %	71.3 %

利用料金収入額

区 分	平成30年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
利用料金収入の目標値	328,000 千円	346,296 千円	339,994 千円	340,634 千円	360,314 千円
利用料金収入の実績値	333,812 千円	274,933 千円	343,413 千円	339,363 千円	361,511 千円
目 標 達 成 度	101.7 %	79.3 %	101.0 %	99.6 %	100.3 %

ジャンルごとの月別入場者数

月	音楽	舞踊	演劇	学会・会議	講演	その他	計
4月	12,880	3,240	0	1,050	1,246	1,781	20,197
5月	23,374	649	0	3,041	420	1,340	28,824
6月	27,073	2,161	5,154	1,080	1,050	1,000	37,518
7月	18,215	1,406	3,762	845	139	5,517	29,884
8月	12,581	1,369	11,891	1,290	800	3,934	31,865
9月	21,578	2,967	1,457	2,058	3,048	5,112	36,220
10月	9,749	1,684	3,117	0	1,650	0	16,200
11月	23,904	5,250	600	1,392	700	445	32,291
12月	27,063	11,247	10,594	1,279	690	1,273	52,146
1月	19,058	1,185	180	982	1,000	977	23,382
2月	5,873	1,200	987	606	850	7,715	17,231
3月	13,833	2,249	0	281	350	0	16,713
	215,181	34,607	37,742	13,904	11,943	29,094	342,471

※「令和6年度のジャンルごとの月別入場者数」は、メインホール・サウスホール・ノースホールの利用に係る入場者数であり、自主事業は財団調べ、貸館事業は利用者（主催者）調べ。

※年間入場者数 356,716 名には、上記入場者数 342,471 名に加え、会議室及びレッスン室 1,514 名ローム・スクエア及びその構内地 12,731 名を含む。

（２）施設等の利用許可に関する業務

京都市京都会館条例及び同条例施行規則に基づき、施設の利用許可や利用料金の徴収などを行いました。

ホール利用受付件数

区 分	平成30年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
舞 台 芸 術 公 演	312 件	335 件	371 件	338 件	388 件
そ の 他 催 し	163 件	124 件	166 件	160 件	135 件
合 計	475 件	459 件	537 件	498 件	523 件

（３）舞台運営に関する業務

より良い催しの実現のため、舞台技術スタッフが、貸館担当スタッフとともに、施設利用者へのサポートや安全管理等を実施しました。日常的な機材メンテナンスや保守業者による点検作業等を計画的に実施したほか、舞台機構、照明、音響などの専門スタッフが、適切な管理や支援、トラブル対応等により、催しが安全な状況で確実に開催される状況を適切に維持しました。

（４）場内サービスに関する業務

ホールの催しにおいて、お客様と直接接し、入場管理、安全管理等を行うレセプション業務については、その人数や配置等について、施設利用者（主催者）とも細かい調整の上、実施しました。

チケット販売のほか、来場者へ施設や公演の案内等を行っている総合案内においては、催しに応じた案内方法の工夫等を行いました。

なお、チケットについては、インターネットを活用した販売も行っており、インターネット経由で予約し、コンビニエンスストアでの発券を選択される方が増えている一方で、電話による予約やお問い合わせをされる方も多く、丁寧な対応を心がけました。また、スマートフォンやパソコンにQRコード（二次元コード）を発行し、読み取り機にQRコードをかざすだけで入場できる電子チケットの購入の際、手数料を安価に設定することで利用を促進し、窓口で受け取る必要がなくなる等のメリットをより広く発信したほか、チケット購入の際、多様なニーズに対応するため電子マネー決済やQRコード決済を導入し、お客様の利便性の向上を図りました。

なお、メインホールとサウスホールに設置されたビューフェカウンターについては、施設内のレストラン（京都モダンテラス）を運営する事業者により、各ホール本番利用の際の開演前、幕間等にビューフェサービスを実施いたしました。

（５）施設設備及び備品の管理

これまでの運営で把握してきた建物の特徴や設備の具体的な特性等に基づき、利用状況や季節変動等を踏まえた日常の設備運用や保守点検、備品管理等を工夫し、安全で効率的な施設運営に努めました。特に、電気設備や舞台設備、空調、楽器（ピアノ）といった、施設の運用に重大な影響を与える設備等については、予防保全の視点から、予め定期点検の日程を確保し実施しています。

また、修繕等が必要となった場合には速やかに対応するとともに、消耗品・備品等の管理も確実にを行っています。その他の各種管理業務や各種有資格者の配置等についても計画通りに実施し、施設を利用される皆様に安心して利用頂ける施設環境を維持しました。

主な修繕等実施状況

内容	支出費用	施工業者名
メインホール、サウスホール、ノースホール音響設備 UPS 更新	2,360 千円	ヤマハサウンドシステム株式会社
メインホール舞台機構バトン制御盤 UPS 修繕	594 千円	三精テクノロジー株式会社
スタインウェイ#530250 ヤマハ#6394200 外装修繕	44 千円	株式会社十字屋
空調機 PAC-8 及び PAC-18 修繕	789 千円	京阪空調工業株式会社
メインホール、サウスホール、レストラン中性性能フィルター交換修繕	3,026 千円	近建ビル管理株式会社
4F 屋外非常放送設備スピーカー、非常灯バッテリー修繕	95 千円	近建ビル管理株式会社

(6) ミュージックサロンの運営など

命名権契約を踏まえた施設運営として、適切な名称の使用や無償使用权への対応、広報スペースの運用等に努めました。なお、広報スペースの一部である、音楽をはじめとした文化芸術に様々な形で触れ合うことができる音楽総合体験施設「ミュージックサロン」においては、令和6年度は約5箇月間展示を実施しました。イベントに関しては、「ROHM CLASSIC SPECIAL トーク&コンサート」3回と「小澤征爾音楽塾展トーク&コンサート」1回をオンライン配信（ライブ、アーカイヴ）し、多くの方にお届けしました。

実績 来場者数

区 分	平成30年	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
来場者数の実績値	9,440名	2,343名	2,970名	3,366名	6,058名

ミュージックサロン 開催内容

事業期間	事業名・内容等	入場者数
6月16日（日）	ROHM CLASSIC SPECIAL トーク&コンサート 動乱の時代と魂の倒影リフレクション 出演：濱崎由紀、入江一雄、佐藤晴真、滝千春 司会：岩崎理衣	955名 (生配信視聴者数)
7月15日（月）	ROHM CLASSIC SPECIAL トーク&コンサート 辻本玲×津田裕也 チェロで紡ぐ、ピアノの詩人ショパンの調べ 出演：辻本玲、Rei Tsujimoto、津田裕也、Yuya Tsuda 司会：岩崎理衣	1,710名 (生配信視聴者数)
9月7日（土）	ROHM CLASSIC SPECIAL トーク&コンサート 浜野与志男 ピアノで語った作曲家たち 出演：浜野与志男、yoshio hamano 司会：田添菜穂子	771名 (生配信視聴者数)
9月11日（水）～ 12月1日（日）	【展示】 オペラの扉 2024 ～ KNOCKING ON THE DOOR, OPERA EXHIBITION ～ コミカルオペラ展 すべて冗談！！愉快的オペラたち 「オペラの扉2024」では、新国立劇場が制作したオペラ・ブッファ作品にスポットをあて、「滑稽なオペラ」「ふざけたオペラ」を紹介。	4,298 名

2025年1月18日 (土)～3月16日 (日)	【展示】 小澤征爾音楽塾展 2025 ヴェルディ作曲の歌劇「椿姫」を、小澤征爾音楽塾では初めて取り上げる。本展では、音楽塾の演出、装置、衣裳を中心としたプロダクションの見どころとともに、作品の魅力を紹介。さらに創設者／永久音楽監督である小澤征爾氏と音楽塾のあゆみを振り返るコーナーを設置。	1,760名
2025年2月5日 (水)	小澤征爾音楽塾展トーク&コンサート 元塾生による弦楽四重奏 小澤征爾音楽塾の原点を辿る 出演：近藤薫、三原久遠、村上淳一郎、門脇大樹 司会：田添菜穂子	1,104名 (生配信視聴者数)

4 事業執行体制等に関すること

(1) 人材の確保、配置、研修等

ア 職員数

提案書記載の計画をもとに、下記の体制で運営にあたりました。

区 分	計画	令和6年度 (4/1 現在)
副館長	(1) 名	1 名
総務部長	(1) 名	—
管理担当	(14) 名	15 名
事業担当	(9) 名	12 名
舞台担当	(8) 名	8 名
計	(33) 名	36 名

イ 研修の実施

職員研修の実施実績（当財団全体）

令和6年6月25日（火）	接遇マナー研修
令和6年7月1日（月）	リーダー研修
令和6年9月3日（火）	経理研修
令和6年3月4日（火）	コンプライアンス研修

ロームシアター京都 独自研修の実施実績

令和6年7月3日（水）	KYOTO EXPERIMENT 職員研修
令和7年2月3日（月）	普通救命講習、護身術講習
令和7年3月19日（水）	舞台芸術懇話会

(2) 再委託業務

特に専門性の高い分野の業務については、委託により実施しました。また、一部の業務については、利用者サービス向上の観点から、業務の安定的な実施と質の向上のため、契約期間を2箇年とし、プ

ロポーザル型の業者選定を行っています。それぞれの委託先とは日常的な情報共有や定期的な協議などにより、業務を円滑に実施できるよう努めています。

主な委託業務は下記のとおりです。

委託内容	受託業者	業務内容
舞台管理運営業務 (2箇年契約)	京滋舞台芸術事業協同組合	ホールの舞台、照明、音響の進行及び 運営管理(舞台設営・撤去、舞台設備 管理等)
会場案内・場内整理業務 (2箇年契約)	株式会社コングレ	会場案内・場内整理等
施設・設備の保守管理業務 (2箇年契約)	近建ビル管理株式会社	施設・設備の保守・管理(電気設備・ 空調設備・給排水衛生設備・消防設備・ その他建物に付属する機器等)
清掃業務 (単年契約)	株式会社タクミサービス	施設・敷地内の日常清掃(ホール内、 各部屋、トイレ、ゴミ収集、屋外等)・ 定期清掃(トイレ、床、ガラス窓)
警備業務 (単年契約)	国土警備保障(株)	施設屋内外の人的警備

(3) 施設運営の充実に向けた取組

ロームシアター京都の中長期的なビジョンやミッションに対して助言をいただくことを目的として、文化政策や劇場管理、舞台芸術に携わる専門家などの外部委員により構成した「ロームシアター京都運営懇談会」を令和5年度に設置し、令和6年度はロームシアター京都10周年記念事業や、劇場のミッション・ビジョンについて助言をいただきました。

また、舞台芸術全般に共通する課題等のトピックスを取り上げ、最新の事例を学ぶほか関係団体との交流を図る「ロームシアター京都舞台芸術懇話会」を新たに設置し、令和6年度は障害のある人への合理的配慮をテーマに開催しました。

5 収支に関すること

利用料金収入は、貸館事業での件数及び収入に伸び悩みましたが、大規模自主事業における収入が伸びたことから目標額を上回りました。支出においては、資材価格や光熱水費の高騰が続いており、事務機器等の買い替えが続いたこともあって809千円の赤字となりました。

	令和6年度(千円)	
	予算	決算
収入の部		
指定管理料	357,343 千円	357,343 千円
利用料金収入	360,314 千円	361,512 千円
事業収入	187,698 千円	180,219 千円
その他収入	79,161 千円	60,469 千円
収入計	984,516 千円	959,543 千円

支出の部		
人件費	276,328 千円	272,309 千円
事業費	305,217 千円	299,068 千円
物件費	395,007 千円	388,975 千円
光熱水費	66,120 千円	79,225 千円
その他支出	328,887 千円	309,750 千円
支出計	976,552 千円	960,352 千円
収支差額	7,964 千円	△809 千円

6 まとめ

令和6年度のロームシアター京都は、8年間（令和元年度から8年度）の指定管理者として後期期間の2年目を迎える年でした。今後とも、指定管理者申請書及びロームシアター京都中間評価報告書で提案した取組について、引き続き推進してまいります。

「劇場文化をつくる」というコンセプトを継続し、世界最先端の舞台芸術を体感できる場であると同時に地域文化振興の拠点としての役割を果たし、文化芸術の創造・発信拠点として文化芸術都市・京都のまち全体の発展に寄与してまいります。

また、今後ますます海外の観光客をはじめ、多様な方々が同時に空間を共有する劇場となりつつある状況を踏まえ、施設や催しの特性に応じた適切な対応を実施しつつ、より開かれた劇場となるよう工夫を凝らしてまいります。

賑わいスペース事業の店舗等の運営では、催しの有無に関わらず施設への来館者も多く、岡崎地域の関係施設等とも連携し、こうした賑わいを地域の価値向上に結び付ける工夫が必要です。このためにも、観光分野や建築分野等協働できる分野とは積極的に交流及び事業の展開を行える体制を整えてまいります。

リニューアルオープンから9年目の現在、補修や修繕が必要な設備も発生していることから、施設としての機能を適切に維持するため、所有者である京都市による修繕とともに、利用者や観客、また、スタッフ等の安全面や快適性を視野に入れた機能向上に引き続き取り組んでいくことも重要と考えます。

次年度、令和8年1月にロームシアター京都は開館10周年を迎えます。自主事業ではこれまでアーティストと築き上げた関係性を生かした作品を発表するとともに、大規模海外作品の招聘等を積極的に展開します。また、貸館事業においても劇場とともに10周年を祝っていただく事業者を募集し、連携事業として広報を展開し祝祭感の演出に努め、劇場としての価値を内外に発信します。

今後とも、変動する社会状況の変化や社会的要請にも着実に対応し、各事業や各業務を進めていくことで、指定管理業務における目標を達成するべく施設運営を行ってまいります。